

## 令和5年度 指定管理施設運営状況評価表

### 1 施設の概要

施設の名称	大畑中央公園	
指定管理者	団体名	一般財団法人むつ市教育福祉振興会
	代表者	理事長 櫻井以文
	所在地	むつ市大畑町観音堂25-1
指定期間	令和5年4月1日～令和8年3月31日（3年間）	
指定管理業務の概要	<p>管理業務の目的                      条例に掲げる施設の設置目的を達成するために計画的かつ効率的な施設管理を実施するとともに、市民の健康増進並びにスポーツの振興により生活や文化の向上に寄与することを目的とする。</p> <p>管理業務の範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設運営に係る使用の許可及び利用料金の徴収に関すること。</li> <li>・大畑中央公園の施設管理維持に関すること。</li> <li>・大畑中央公園の広報及び利用促進に関すること。</li> <li>・スポーツを通じて地域住民の健康及び体力の向上のための施設提供に関すること。</li> <li>・上記に掲げるもののほか施設管理上必要と認められる業務に関すること。</li> </ul>	

- 2 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。  
 ※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。  
 ※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収入合計 (A)	52,323	51,173	▲1,150
うち利用料金額	2,210	1,206	▲1,004
うち指定管理料	50,023	49,795	▲228
支出合計 (B)	52,323	50,062	▲2,261
うち人件費	24,070	22,892	▲1,178
収支差 (A-B)	0	1,111	1,111
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	<p>○収入について</p> <p>計画と実績の増減については、「2 収支の状況」及び「3 施設利用の状況」に記載した表のとおりである。</p> <p>「2 収支の状況」中、利用料金額収入は伸び悩み、計画額 2,210 千円に対し 1,206 千円の収入となり、達成率は 55%に留まった。</p> <p>電気料の高騰を受け、電気料が不足し、施設運営に影響が出ると予測され、不足見込額の 60%を年度当初に追加されたが、12月までの実績をもとに電気料見込みを試算したところ、市の見込額と大きく乖離するとして、協議により余剰金額 228 千円を返還した。</p> <p>「3 施設利用の状況」中、利用者数は前年より増加したが、全施設において計画人数には至らなかった。</p>		

	<p>施設ごとの利用状況等は、別添「事業報告書 添付資料」の「事業別計算書」、「指定管理事業 利用者実績及び収入明細書」に示してあるとおり。</p> <p>野球場については、利用者数は、計画人数 2,400 人に対して 2,219 人の利用があり達成率は 92%、利用料金収入は、計画額 190,000 円に対して 113,790 円の収入、達成率は 60%となった。前年と比べると利用者数は増加したが、利用料金収入は 14,210 円減少した。これは、大会数は増加したものの、一般利用が減少したことが要因となっている。</p> <p>次に庭球場については、利用者数は、計画人数 600 人に対して 60 人の利用があり達成率は 10 %、利用料金収入は、計画額 70,000 円に対して 8,980 円の収入、13%となり、前年と比べると利用者数及び利用料金収入ともに減少した。減少理由は、児童・生徒の利用が大きく減少し、一般の利用者数も前年の 5 分の 1 に留まったことによるものである。</p> <p>次に陸上競技場については、利用者数は、計画人数 4,300 人に対して 4,030 人の利用があり達成率は 94%、利用料金収入は、計画額 150,000 円に対して 145,520 円の収入、達成率は 97%となり、前年と比べると利用者数は 528 人増加し、利用料金収入は 23,810 円増加した。増加の理由としては、トラック及びフィールドの利用件数が増加したことで、グラウンド・ゴルフ教室を通じて協会へ大会誘致を呼びかけて、県大会が行われたことが主な要因となっている。</p> <p>最後にプール施設については、利用者数は、計画人数 9,000 人に対して 6,384 人の利用があり達成率は 71%、利用料金収入は、計画額 1,800,000 円に対して 938,100 円の収入、達成率は 52%となり、前年と比べると利用者数は 290 人増加し、利用料金収入は 7,750 円減少した。なお、区分別の利用状況においては、シニアの利用者数は減少したものの、幼児及び児童・生徒の利用者数が増加している。一般の利用者数は前年同等だった。</p> <p><b>○支出について</b></p> <p>「2 収支の状況」中、支出合計の実績額が計画額より 2,260 千円減となっている要因は、人件費実績額が、計画額より 1,178 千円減となったことが主な要因となっている。また、燃料費及び電気料並びに水道料が計画額より 901 千円減となったことも要因となっている。</p> <p>人件費が減った要因は、9月まで欠員補充ができなかったことによるものである。</p> <p>燃料費については、年度初めから燃料費の高騰が懸念されたため、プールで使用する灯油については、プール内の温度管理を徹底したことにより、執行額を抑制することができた。</p> <p>電気料については、東北電力による節電アクションに参加して、待機電力を抑制するなどの節電意識を高めたことにより、電気使用量については、抑えることができた。</p>
--	--

### 3 施設利用の状況

単位：人

	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
利用者数	野球場	2, 4 0 0	2, 2 1 9	▲ 1 8 1
	庭球場	6 0 0	6 0	▲ 5 4 0
	陸上競技場	4, 3 0 0	4, 0 3 0	▲ 2 7 0

	プール	9,000	6,384	▲2,616
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 (有・無) 利用者の声は、意見箱を設置して利用者ニーズの把握に努めた。ホームページからも意見や要望を受信できるようにした。 意見箱で受けた意見等については、スタッフ全員で共有し検証しており、改善すべき部分は具体的な対策を持って対応した。 今期は意見箱等による利用者の声はなかった。意見箱等とは別に、7月下旬から3週間にわたり利用者アンケートを実施した。アンケートには好意的な回答が多くあったが、夏の更衣室の匂いが気になるなど、一部厳しい意見もあり、速やかに措置を講じて改善を図った。				

4 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事業名	利用者数	収入	支出
スポーツ振興事業・水泳教室	1,153	821	585
スポーツ振興事業・ルネックウォーキング教室	27	29	45
スポーツ振興事業・グラウンドゴルフ教室	97	0	77
スポーツ振興事業・軟式野球大会	227	99	166
スポーツ振興事業・冬のイベント	163	30	25

5 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

- 評価基準 A (優良) : 計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果をあげることが見込まれる。  
 B (適正) : 適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準を達成できることが見込まれる。  
 C (要改善) : 指定管理業務の一部に課題があると認められ、改善の余地がある。

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
① 開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
② 施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③ 利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④ 利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
① 施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
⑤ 潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
⑥ 自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	A	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
① 施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
② 収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
② 職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
① 施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
③ 設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
④ 労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④ 利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B

(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
① 利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
② 日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③ 防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④ 利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

## 6 指定管理者総合評価

<p>④指定管理者は当該評価期間における自己評価を記載すること。また、個別項目評価をCとした場合は、改善策も記載すること。</p> <p>施設を管理運営するにあたり、新型コロナウイルスによる水際対策を徹底するため、職員については、毎日の検温を実施するとともに、体調不良のときは躊躇なく休むことを徹底した。</p> <p>事業経営については、指定管理者として宿命である施設の活性化、サービスの向上、コストの削減について取組んだ。</p> <p>施設利用料金については、条例の範囲内で承認を受けた年度計画に基づき実施し、プール施設の回数券の設定により利用者ニーズ及び利便性の向上に努めた。</p> <p>利用料金の徴収については、利用者数と利用料金について記録し適切な手続きにより管理するとともに、入金までの手続については、複数の職員によってその整合性を点検確認した。</p> <p>施設の維持管理について、修繕費は、プール設備については経年に伴う補修があったものの、大きな修理がなかった。</p> <p>年度当初から燃料費の高騰が懸念されたことから、プールに使用する灯油については、職員間で常に節約の周知徹底に努め、縮減を図り、計画数量（73,510 ㍲）に収めたものの、灯油使用量実績は、前年 66,624 ㍲の使用量に対して当年は 67,473 ㍲となり、849 ㍲の増加となった。</p> <p>また、電気料については、前年 3,441,822 円の支出額に対して、当年は 3,457,024 円となり 15,202 円の増額となった。</p> <p>広報活動については、施設利用案内チラシを作成し公共施設並びにむつ市内の幼稚園及び小学校へ掲示等の依頼をした。</p> <p>自主事業は、次の7つの事業を実施した。自主事業の参加者数が、施設利用者数の13%を占めたことから個別項目評価をAとした。</p> <p>水泳教室は、5月から実施した。プール施設の利用の機会を増やすとともに、健康増進及び水泳の競技人口増加につながるきっかけづくりとして役割を果たした。水泳教室の参加者数は前年と比べると117人増加して、プール利用者数全体の約18%を占めた。</p> <p>7月には着衣水泳教室を実施した。防災教育としての側面があり、参加者に水難への備えについて伝えることができた。</p> <p>ノルディックウォーキング教室は、5月、7月、9月に実施した。5月は公園内をウォーキング、7月は大畑中央公園から木野部峠を越えてむつ市下北自然の家までをウォーキング、9月は大畑中央公園から薬研橋駐車帯までのコースを設定してウォーキングを実施した。薬研道は初めてのコースだったことから、事前に実地踏査を行い、危険箇所や歩行時間等の確認を行うとともに、当日は職員6人体制で安全配慮に努めた。</p> <p>グラウンド・ゴルフ教室は、5月～10月の毎月第2、第4水曜日に実施した。毎回参加する参加者は、回を重ねるごとに楽しさが増し、前年から継続して参加している方々は、個々に用具を揃えるなど、本格的に取り組む人もあり、競技中は大いに盛り上がった。教室の日に合わせて、むつグラウンド・ゴルフ協会が教室の参加者と一緒に練習することもあった。10月には、「むつ市長杯グラウンド・ゴ</p>
---

ルフ交歓大会」が開催され、陸上競技場の利用者数及び利用料金収入の増加にも繋がった。

軟式野球大会においては、今期よりむつ市内からチームを募り、熟年リーグ戦（満 40 歳以上、満 60 歳未満）を開催した。大会は、5 月から 10 月の期間で、4 チームによる総当たり 2 回戦（6 節全 12 試合）で実施した。

少年軟式野球大会は、あさひな杯・第 5 回を開催した。むつ下北地域のスポーツ少年団 8 チームによる、2 日日程のトーナメント戦を開催する予定だったが、猛暑日が続いていたため、熱中症予防対策及び十分な措置を講じて準備したが、大会日も猛暑などによる天候不順があったことから、児童の安全を最優先として予定を変更して開催した。

冬期間は、多目的な施設としての初の取組みとして、冬のイベントを開催した。野球場をメイン会場として、雪だるまを作り、雪灯籠やイルミネーションで飾り付けをしてフォトスポットとして開放した。来場者は 163 人だった。歩くスキーの無料貸出し、あげパン販売をした。あげパンは販売開始 30 分で 200 個が完売した。今後は、会場内の遊びや販売等の工夫を凝らして来場者に楽しんでもらえるよう創意工夫をして開催していきたい。

職員の教育訓練については、施設利用者の安全を最優先に考えた施設運営と維持管理を適正に行うため、プール開設前と夏休みの繁忙期前に研修を 2 回実施した。条例・規則及び業務仕様書等の読み合わせをして業務内容について共通理解を図った。また、事業計画のとおり消防訓練及び救助訓練を実施して、職員の安全対策の構築とともに資質向上とサービス向上の意識づくりを行った。

資格取得については、1 名について公認スポーツ施設運営士を養成することができた。また、プール衛生管理者について、認定期間の更新時期であることから職員の 3 名が自宅学習型にて受講した。

今後も、定期的に教育訓練を実施し、これまで当施設を管理してきた経験を活かしながら、安心・安全で効率的かつ、効果の高い施設運営を行い、より成果を高めたい。

## 7 市の所管課総合評価

④所管課は当該評価期間における総合評価を記載すること。また、個別項目評価を C とした場合は、指導内容も記載すること。

- ・施設利用者数は、庭球場以外は前年度と同程度の利用者数を維持できており、光熱費については電気や燃料の使用について徹底した管理で節減に取り組んでいたことを評価する。
- ・自主事業では、冬のイベントとしてイルミネーションやフォトスポットの設置、あげパンの販売など新たな企画を実施することで、冬期間においても施設の有効活用に努めた点を評価する。引き続き、利用者のニーズに応えるイベントの企画運営を期待する。
- ・職員管理については体調管理の徹底や各種訓練の実施、資格取得についても積極的に受講している点を評価する。今後も職員教育には意欲的に取り組んでいただきたい。